

留学して学んだこと

ゲレルチュルン アリウンゲレル (筑波大学)

今から16年前にモンゴル医科大学に進学し、私の大学生活が始まりました。大学卒業前に私自身と母が病気になったことを通して、モンゴルでの医療の限界を知り、このままモンゴルで医者になって良いのかと疑問に思い、留学を決めました。当時のモンゴルはまだ貧乏で、留学したいという気持ちだけで簡単に留学が出来るような状況ではありませんでした。私は経済力も語学力もありませんでしたが、勉強したいという強い願望を持って卒業後日本へ来ました。筑波大学に入学できたことで、夢を持ち目標を立て、そのために努力をすれば必ず報われるという大切なことを学ぶことから始まった留學生活に、この2015年の春終わりを告げました。学生時代から現在に至るまでに得たものはたくさんあります。

医学で得た知識を踏まえて生物分野の研究に取り組み、細胞内の損傷やそれに対する修復応答の研究に携わる上で得たのは、生き物の素晴らしさを知ることです。数千年にわたる長い間生物の進化をもたらす自然選択の結果として生き残った生き物、我々の細胞の構造、応答は完璧であることを理解しました。我々の体は、100兆の賢くて完璧なシステムの細胞で形成されている自然の素晴らしい作品の一つだと思います。

しかし、その完璧な人間の作品の一つである社会は完璧ではないことに気づきました。地球の歴史に比べると社会はまだ若くて未完成な点が多く、改善する点がたくさん存在していることを知りました。社会の改善のためにも人類は自然を勉強し、自然を理解することに力を注いで頑張っていますが、未解決な部分が多く、まだまだ学ぶことや解決すべきことが数多くあり、研究する甲斐があります。さらに、自然の美しさは人の心を癒し、優しくて器の大きな人間にしてくれる大きな力を持っていることにも気づきました。

また、留学先で文化や性格の異なるたくさんの人々と出会うことができ、人間的にも大きく成長したと思います。外国人として生活する上で、気づいたもう一つのことは、習慣や知識で限られてしまう「当たり前のこと、当然のこと」は無く、なんでも起き得る、なんでも有り得ると思うようになったことです。そう思うことで、他文化や習慣に馴染みやすくなり、私の視野が広がり、モンゴル人だった私が地球人＝人間に成長しました。モンゴルの「その土地の水を飲んだらその土地の文化に従え」ということわざが、日本の「郷に入っては郷に従え」と同じ意味であることなどが良く分かるようになりました。

日本に長く住んでいるからこそ日本をより深く知るようになりました。日本は平和で、人種差別も少ない国だと思います。例として日本の相撲を見ると、外国人力士がたくさんいても相撲を愛し続けているところがすごいと感心しています。人種差別は世界の歴史的にも大きな問題です。

多くの国が人種差別のない世界を目指していますが、未だに大きな問題であるということをアメリカでの短期留学中に気づきました。私はアジア人で日本人と同じ顔しているからか、日本にいる7～8年の間に差別を感じたことはありません。また、日本人は礼儀正しく、優しい国民で何をするにも心を込めて一生懸命にやる性格の人が多く感じました。日本の技術と日本の製品は世界一信用されていることに納得しています。私が好きな日本のもう一つの点は古い文化を守りながら、新しい文化を受け入れて進歩させているところです。例えば、小さな和菓子店には100年以上の歴史があって、100年以上味が変わっていないという和菓子がたくさんあります。誇りと自信を持って、変わらずに何世代も同じこと同じ味を維持し続けて素敵だと思います。だから、日本国内の旅はそこでしか味わうことができない、その場所でしか作れないものがたくさんあり、日本のどこへ行っても新鮮で楽しいです。日本の島国に住んで、日本のおいしい水を飲んで、おいしい空気を毎日吸っている私には日本人の良い性格や文化がしみ込んでいるだろうと思います。

留学して、母国モンゴルの歴史と世界の歴史を知らないということを恥ずかしいと思いました。現在の国々がどのようにできたか等、様々な歴史を知ることによって今日の自分の土台を知り、考え方が広がり最もグローバル化すると思い、歴史に興味を湧き、最近勉強し始めました。

留学は私の人生においてとても大切な経験であり、その経験を支えてくださったたくさんの方々への感謝の気持ちでいっぱいです。